

認知症の研究を効率的・効果的に推進するための体制構築に関する研究事業 事業結果の概要

【目的】

オレンジプランの精神に沿って認知症施策の推進に資する研究を進めるため、認知症当事者、家族、関係省庁、アカデミア、民間企業を含む関係機関等が基礎研究と臨床研究の融合のための共通基盤づくりを目指し、産学官の連携による社会実装体制の充実のための研究を行う。

【方法】

- ①調査内容の検討：委員会等や委託先との協議にて本調査研究を行うために必要な調査項目を検討する。
- ②認知症研究における現状を関係者で共有するためのシンポジウムを開催するとともに、認知症当事者、治験・臨床研究従事者を含むアカデミア、製薬企業等を対象としたアンケート調査を行う。
- ③今後の方向性の検討：調査結果を踏まえ、認知症研究の現状に関する課題を整理し、共通基盤づくりや社会実装体制の充実のためのあり方に関して検討を行う。

【結果および考察】

①シンポジウム参加者および治験・臨床研究従事者に対するアンケート調査

日本における認知症研究は基礎研究、臨床研究ともにある程度、世界的に問題ない地位を確保しているという認識をアカデミア、企業とも共有しているものの、基礎研究から臨床研究への橋渡しや臨床研究における成果の社会への還元など、認知症研究の連携という面で問題点があるとする関係者の認識が判明した。

②オレンジレジストリ参加医療機関、当事者・家族および製薬企業に対するアンケート調査

医療機関はレジストリ研究を実施する社会的意義を感じつつも、情報集約や成果活用に至っていないことを問題視し、製薬企業もレジストリ研究への期待は大きいものの、様々な懸念を持っていることが判明した。当事者は自身の状態管理や知識習得といった面でレジストリに期待している一方、治験を含む他研究への参加意欲も高く、製薬企業等が期待する被験者募集への寄与というニーズに合致していた。

③今後の方向性の検討

委員会等における検討では、国際連携や医療機関間の連携、介護と医療の連携など、「連携」がキーワードとして抽出された。現状ではこの連携に必要な研究基盤整備において、人材・資金の確保や効率的なシステム構築、当事者目線での情報還元や国民への成果の広報等に課題を抱えており、アカデミアだけでなく民間や当事者を含む国民の意見を反映させていくことが重要と考えられた。